

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.49 先祖の魂の 記憶

とある居酒屋で酒を酌み交わす御手洗透と山部聡。

「最近、姫って変わってない？」

「そうなんっすよ。山部さんも気づいてはりました。」

「何か強制されているわけではなく、かといって無理をしている感じでもなく。自然体で楽しみながら健康を意識しているオーラが出てるね。」

「この間、和尚が座禅を組みながら、姫に説法をされてましてん。肉食動物と草食動物の件ですわ。」

新緑がまぶしく映える山々を前に座禅を組む姫と和尚。山鳥のさえずりが聞こえている。

「倭国の民族は基本的に農耕をモットーとし、己が栽培したものを主食となし、すべての生きとし生けるものに情けをかけ、肉食を嫌い、草食をよしとした遺伝子を育んでおる。他人のために己が犠牲となること

を美とし周りの犠牲の基に己が立つことを忌み嫌う遺伝子を育んでいる。このような遺伝子すなわち祖先の魂の記憶、否、本質がお主の体の中を脈々と流れておる。この流れを素直に受け止めるか、あるいは生き様の自由を叫んで抗うかはお主の自由じゃ。自由じゃが、抗えば抗うほどお主の肉体の中にも敵を多く作ることになる。もちろんその最終責任は自己責任として自分の身体で償うことになる。心して考えるがよい。今の自分に必要なものとは何ぞや。」

「あの説法後に肉食への執着が吹っ切れたように変わりましたん。」

「いや、あのフレーズは心に浸みるよね。大和撫子の魂を切々と説くもんね。」

「お蔭で姫も好き放題した後のツケと、頑張っって摂生した場合の褒美とを天秤にかけ自分自身で変わり始めたい事ですわ。」

「先祖の魂の記憶か。私もこうやって飲むときも、食べるものを考えるようになったもんな。習慣って恐ろしいよな。自然と野菜と魚を選ぶようになっている。お蔭で身体の体調はものすごくいいしな。」

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村陽一